

### 【今日の説教から】

来週はクリスマスです。「もろびとこぞりて」は有名なクリスマスの賛美歌ですが、英語の歌いだしは"Joy to the world, the Lord is come!"であり、「世界よ喜べ、主は来られた」です。今日の箇所の中にも何回「喜び」という言葉が書かれていることでしょうか。バプテスマのヨハネは、主を証しする者にふさわしく、母の胎の中にいる時からイエス様の母マリアの声を聞いたとたんにおなかの中で飛び抜けた尋常ではない喜びによって跳ね回ったと聖書に2回記されます。

マリアもこれを見て、「わたしのたましいは主をあがめ、わたしの霊は救主なる神をたたえます」と語りましたが、これは「私のたましい、私自身、最も心の深いところにある存在、私の内なる命は、主を拡大する、引き伸ばす、延長する」という意味になります。つまり、私の全存在は、神様を今までよりももっともっと大きな存在として、そば近い助けとして感じていますとの意味です。そしてわがたましい、内なる命、心の状態は、わが救い主、贖い主、導き主のゆえにこの上なく尋常でなく喜ぶと語られます。

主をあがめ、喜ぶという事。これは今まで以上に主はいつくしみと憐れみに満ちた方だと知り、この上なく極度に、非常に嬉しく思い、喜ぶという事なのです。

神様によって、私たちの全存在に、内なる命、最も心深くに恵みと憐れみが働きかけるのです。それがクリスマスなのです。

皆様おはようございます。先週の日曜日に続き、今日も雪の朝となりました。昨日の朝も白かったですが、今日はそれ以上ですね。このところ週末になると雪が降るような感じです。雪のクリスマスにならない年も最近は多くなりました。そして今年はずっと夏が続いているような気候でしたのに、雪は早くやって来るというこの年、何か体のリズムが乱されるような、気候と暦に心の感覚が追いついて行かないような変な気持ちがいたします。しかし、皆様、冬本番、どうぞご自愛ください。

いよいよ来週はクリスマスです。今日の聖書の箇所から、クリスマスはなんと喜びにあふれる出来事なのだろうかと教えられます。

1:39 そのころ、マリヤは立って、大急ぎで山里へむかいユダの町に行き、

1:40 ザカリヤの家にはいつてエリサベツにあいさつした。

1:41 エリサベツがマリヤのあいさつを聞いたとき、その子が胎内でおどった。エリサベツは聖霊に満たされ、

1:42 声高く叫んで言った、「あなたは女の中で祝福されたかた、あなたの胎の実も祝福されています。

1:43 主の母上がわたしのところにきてくださるとは、なんという光栄でしょう。

1:44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。

さすがは主イエス様の証しをするための預言者として召されたヨハネです。イエス様の母マリヤの声を母エリサベツが聞くや、母の胎の中から喜び踊ったのです。

この出来事は母エリサベツの口からも44節にあるように書かれており、

1:44 ごらんなさい。あなたのあいさつの声がわたしの耳にはいったとき、子供が胎内で喜びおどりました。

ここで言われている喜びとは、極度の、非常な、最大の、過激な、激しい、極端な、度を越えた、徹底的な、極限の喜びを指します。

ヨハネは、母の胎の中からそのような喜びを爆発させ、赤子ながらに跳びまわって喜んだのです。これは本当に尋常なことではありませんでした。なぜならば、尋常ではないことが起こったからです。それがイエス様のお誕生でした。それがクリスマスです。

1:45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。

高齢出産は稀に起こり得るとしても、処女懐胎などという事は医学では到底理解されないことです。理解できない、理解されようもないことをマリアは信じました。

「どうして、そんな事があり得ましょうか。」とは、どのようにしてそれは起こり得るのでしょうかとの、肯定的な疑問でした。

「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。…神には、なんでもできないことはありません」との御使いの言葉に、マリヤは「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」と答えるのです。神様の御業を信じる。お言葉を信じる。そうした時に、御言葉の通りに事が成就します。そのような力強い、忠実な神様のお言葉を信じるという事は、何と幸いなことなのでしょう。

1:46 するとマリヤは言った、「わたしの魂は主をあがめ、

1:47 わたしの霊は救主なる神をたたえます。

1:48 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、

1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、  
1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。  
1:51 主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、  
1:52 権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、  
1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。  
1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、  
1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさった  
とおりに」。

ザカリヤは祭司でありながら、その神様のお言葉が御使いを通して語られたことを信じる  
ことが出来ませんでした。彼は「どうしてそんな事が、わたしにわかるのでしょうか。わたし  
は老人ですし、妻も年をとっています」と語りました。

彼は、自分の状況の中では、そうそんなことは不可能だと自分の頭で決めつけて、いくら神  
様であろうと、この自分の頭で考えられないことをできるはずがないと決めつけていまし  
た。しかし私たちは神様によって創られた被造物である人間に過ぎません。この世界全てを、  
無から作り上げられたお方、すべてのいのちを無から作り上げられたお方に対して、私たち  
は、自分が理解できないからと言って、何の不平を言うことが出来るのでしょうか。

しかしマリヤは寒村の年端もいかない娘でありながら、常日頃から神様の救いを待ち焦が  
れていたのです。ですから胸騒ぎがしながらも、自分に子が与えられるという突飛で、婚約  
者ある平凡な自分の暮らしが妨げられたとしても、この御言葉に、自らの国への慰めと救い  
を見て取ったのです。

1:32 彼は大きいなる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる  
神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、

1:33 彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」。

マリヤもまた、シメオンとアンナのように、神の民の救いを待ち望んでいたのではないで  
しょうか。そうでなければこのように美しくも力強い賛歌を語ることはできなかったと思  
います。

1:46 するとマリヤは言った、「わたしの魂は主をあがめ、

1:47 わたしの霊は救主なる神をたたえます。

主をあがめる。これは、主を拡大するとか、延長するという意味があります。わがたましい  
とは、私自身、私の心の最も深いところ、私の内なる命を指します。最も深いところから、

私の全存在をかけて、命を注ぎだして、私は神様を大きく拡大し、神様を目の前に広げています。これがマリヤの讃歌の出だしです。

そして私の霊は、これも内なる命、心の状態は、心の底化に申し上げますという意味ですが、尋常ならない、極限の喜びにあると彼女は語ります。なぜでしょうか。なぜならば神様はわが救い主、贖い主、導き出してくださる救出者だからです。

1:48 この卑しい女をさえ、心にかけてくださいました。今からのち代々の人々は、わたしをさいわいな女と言うでしょう、

1:49 力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、

1:50 そのあわれみは、代々限りなく／主をかしこみ恐れる者に及びます。

マリヤはその信仰をエリサベツから称賛されながらも、彼女に自らの思いを説明するというよりかは、神様に思いのたけを、爆発するかのように熱い感謝と賛美の気持ちをぶつけています。

彼女は自分を卑しい女性と卑下しながらも、神様がこのように低き身分の者に目をかけてくださったという事を喜んでいます。しかしそれは自分が果報者で特別に目をかけられたのだという事を言いたいわけではありませんでした。それは、神様が自分たちのような弱いものに目を向けてくださったという、そういう喜びなのでした。

1:51 主はみ腕をもって力をふるい、心の思いのおごり高ぶる者を追い散らし、

1:52 権力ある者を王座から引きおろし、卑しい者を引き上げ、

1:53 飢えている者を良いもので飽かせ、富んでいる者を空腹のまま帰らせなさいます。

1:54 主は、あわれみをお忘れにならず、その僕イスラエルを助けてくださいました、

1:55 わたしたちの父祖アブラハムとその子孫とを／とこしえにあわれむと約束なさったとおりに」。

神の国は廃れ、荒れ果てていました。神様の憐れみを取り次ぐものはおらず、力あるものは自分のことしか考えてはいませんでした。そういう廃れ果てた神の国を再興するために神様は自分の身を通してダビデの王座を継ぎ、憐れみ深い治世をとこしえに行う特別な方をお送りくださるという事は、彼女にとってこの上もない喜びだったのです。そしてそこまでに神様は、わたくしたちのことを考えていてくださったのだという事実は、彼女の想像をも思いをもはるかに超えるものであり、従ってマリヤは神様を大きく大きく目の前に近く力強く拝することとなったのです。私たちに神様はどうでしょうか。私たちは神様に、そこまでに神の教会と神の御国のために心を痛め、祈り、とりなし、期待し、そして自らの身が用いられることを願っているのでしょうか。そのような祈りを神様はお聞きになられま

す。そして神様は、49節にありますように、「力あるかた」です。「神には、なんでもできないことはありません」。「どのようにしたらそのようなことが起こり得るのですか」だって私たちは弱く、小さく、力弱く、もう年も取っていて…と、そんなことを神様に語ることは無用なのです。神様のもとにはご計画があります。神様には何でもお出来になるのです。

1:45 主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。

1:58 近所の人々や親族は、主が大きなあわれみを彼女におかけになったことを聞いて、共どもに喜んだ。

主の大きな憐れみをもって私たちに臨み、踊り飛び跳ねて、尋常ではない、極度の喜びに私たちを満たしてくださるお方なのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。クリスマスの中に

ある大きな、並外れた、突き抜けた喜びを、あなたの恵みと憐れみに、

心より感謝を申し上げます。私たちはもっともっと神様を偉大で大きく、

そのお力は限りないお方であると心の奥底から実感し、この上なく

喜び、嬉しく思い、感謝をおささげしたいと願っております。どうか私

たちが生ける神様を信じ続けることが出来るようにとお導きください。

どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。

私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。

主イエス様の御名によって祈ります。アーメン